

# 教育に関する事務の管理及び執行の 状況の点検及び評価の結果報告書

(令和6年度対象)

令和7年7月

半田市教育委員会

# 目 次

はじめに	1
1. 本市教育委員会における実施方法	2
(1) 目 的	2
(2) 点検・評価の対象	2
(3) 点検・評価の構成	2
(4) 点検・評価の方法及び経緯	2
(5) 議会への報告・市民への公表	3
2. 学識経験者による意見	4
3. 施策の評価 ～ 令和6年度を振り返っての施策の評価 ～	7
4. 令和6年度教育委員会主要施策点検・評価表	16
5. 資料集	別冊

## はじめに

平成19年に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成20年4月1日施行）、各教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出、公表することとされました。

このことに基づき、市教育委員会では、平成20年12月から「教育委員会の点検・評価」を実施し、その結果に関する報告書を市議会に提出するとともに公表してきました。今回は令和6年度の主な施策・事業が着実に実施されているか、また、効果的に行われているかなどについて、教育委員会自らが点検・評価を行いました。

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和6年度の教育委員会の点検及び評価を行い、教育に関する2名の学識経験者の方々の意見をいただいて作成したものです。

### ○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

**第26条** 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

**2** 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 1. 本市教育委員会における実施方法

### (1) 目 的

本市の教育行政の充実に資するとともに、市民への説明責任を果たすことを目的とします。

### (2) 点検・評価の対象

令和6年度に実施した教育委員会所管の主な施策・事業を対象としています。

### (3) 点検・評価の構成

- ア 令和6年度の実施状況
- イ 実施状況に関する成果、課題、自己評価
- ウ 課題への対応、今後の目標
- エ 学識経験者による外部評価

### (4) 点検・評価の方法及び経緯

- ア 教育委員会において点検・評価表を作成し、対象とした施策・事業ごとに自己評価を行うとともに、実施状況及び成果を明らかにし、課題等を分析して、今後の対応の方向性を示しました。
- イ この点検・評価について、客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する方々のご意見をお聞きする機会を設け、ご意見、ご助言をいただくとともに、各施策・事業について外部評価をしていただきました。

氏 名	所 属 等
浅 田 謙 司 (あさだ けんじ)	元名古屋学芸大学教職課程 ヒューマンケア学部 特任教授
鈴 木 裕 子 (すずき ゆうこ)	愛知教育大学 幼児教育講座 特別教授

(敬称略)

ウ 点検・評価表の評価欄の基準内容は次のとおりです。

評価記号	評価基準
A	目標を上回る成果が得られている
B	課題の取り組みや目標が達成されている
C	課題の取り組みや目標が、おおむね達成されている
D	課題の取り組みや目標が、あまり達成されていない
E	成果が目標を大きく下回っている

エ 点検・評価に関わる会議開催状況

令和7年7月9日（水） 外部有識者に事業等の取組みを説明し、意見・提言・評価をいただきました。

令和7年7月24日（木） 定例教育委員会で協議し承認を得ました。

(5) 議会への報告及び市民への公表

令和7年8月26日（火）に議会へ報告します。（議員に配布、全員協議会で説明。）その後、報告書を半田市教育委員会のホームページに掲載して、市民へ公表します。

## 2. 学識経験者による意見

点検・評価にあたり、教育に関し学識経験者の知見の活用を図るため、浅田謙司氏、鈴木裕子氏よりご意見、ご助言をいただきました。主な内容は、次のとおりです。

### 【全体】

学校教育に関しては、給食センターも含めて学校文化のシステム自体をイノベーションするような取り組みを実践している。理念として掲げるだけでなく、細かいところで具現化し、進めていると感じた。

社会教育については、文化的な醸成をベースとしたまちづくりをしているよう。愛着心や郷土愛を育む取り組みをしているが、露骨に推進するのではなく、掘り起こしていく感覚。さらに、文化的なまちづくりを具現化しつつ、地域コミュニティの形成にも目を向けて取り組んでいる点は、今の少子高齢化の時代にあって人・もの・ことを繋げ、支える取り組みとして非常に重要であると感じた。

### 【学校教育課】

SSWを増員し3人体制としたことは、半田市教育委員会としての一種のバロメーターであり、半田市の姿勢の象徴だと思う。思想を大事にして学校と連携し、守秘義務にも配慮しつつ重層的な関わりで学校の力になることを期待する。併せて、子どもたちの居場所となる校内教育支援センターも他の学校に展開されていくといい。

水泳については、多くの市町でもプール施設の管理等から課題となっているが、学校現場でも水泳は体育の授業の年間の柱の一つとしているので、大きな改革が進んでいると感じる。現場の声を聞きながら、よりよい形で進めていってほしい。

### 【学校給食センター】

徴収金システムの導入について、教員の働き方改革の視点では大きな一歩。国も働き方改革のために様々な取り組みをしていると思うが、教育の質をあげるには、こういった周辺整備のようなことに目を向けてほしい。先生方の事務的な業務負担を軽減し、指導案の充実や児童生徒と向き合う時間を確保できる非常に良い取り組み。

残菜活用の取り組みも素晴らしい。子どもたちに給食を残しちゃいけないと言うより、目に見える形にしたことで、より地球温暖化防止や循環型社会への理解を深められる。

## 【生涯学習課】

昨年に引き続き、攻めの生涯学習課という印象。現場目線でイベントを考えていることが伝わる。音楽マルシェなど身近なところで体験できる取組みが多く、また、アールブリュット展のサテライト会場という発想も現場の小さなニーズを察知しているからこそできることであり、大いに評価できる。

公民館の老朽化に伴う新たな施設については、新しい取組みには化学変化が起こり賛否あると思うが、地域の未来ミーティングなどで丁寧に声を聞き、モデルケースとなることを期待する。

## 【スポーツ課】

どこでもスポーツ事業について、生涯学習課のどこでもアート事業と同じ発想だと思うが、自分たちが出かけて行ってスポーツの機会を提供する。すごいと思う。今後も様々な取組みを計画されているようなので期待する。

総合型地域スポーツクラブについて。一部スポーツクラブの加入率の減少がやや気になる。部活動改革の受け皿として、他の地区にはない半田市の強みだと思うので、それを活かして進めていけると思う。一方で、指導者の確保は課題。良い成績を残すために競技性を高めるのか、楽しいと感じてもらえることを大事にしてスポーツの輪を広げていくのか。

また、子どもに限らず、健康寿命の延伸という視点で生涯スポーツに関われるといい。どこでもスポーツ事業の対象を高齢者にしてもおもしろい。

## 【図書館】

いろいろな取組みされている中、いずれも当初の目標を達成したことでA評価が並んでいて敬意を表す。

電子書籍について、学校のGIGAスクール構想とも連携して行ってほしい。学校で電子書籍に触れることで、紙の図書にも興味を持つきっかけにもなると思う。単純に点数が増える減るではなく、選択肢を増やしていくことは非常に大切なこと。

郷土資料をスキャンしてアーカイブしていくことは大事。また、これをWEB上で公開することで図書館に足を運ばなくても見られるのは意義のあること。

## 【博物館】

中埜家住宅のPRにSNS（YouTube）を使いバージョンアップしていると感じた。アンテナを高くしているからこそその発想だと思う。若い世代がSNSを見て興味を持ち、文化に触れ、ひいては自分のまちを好きになるというサイクルにもなり得る。

企画展は好評だったので、A評価でも良いとも思うが、これらのイベント等を入口にして常設展にもつなげられるといい。

## 【新美南吉記念館】

イベントでは、ネーミングが大事。一目でポリシーが伝わってくる。興味を惹かれるネーミングができています。イベントを開催することで、少しずつファンも増えていると思う。

AIの利用は避けられず、活用次第だと思う。すべてをAIに任せて読書感想文等を作るのはNGだが、作文の苦手な子が構成を考えてもらったりすることで、できなかったことができるようになるのは良いこと。

### 3. 施策の評価 ～令和6年度を振り返っての評価～

#### 【学校教育課】

##### ■主な取組みと成果

令和6年度の目標は概ね達成することができた。

小学校防犯カメラ整備事業は、事前に警察とも協議し、効果的な設置場所に必要な台数の防犯カメラを設置することができた。引き続き、防犯対策を強化するため、未設置の学校への設置を進める。

亀崎小学校改築等事業では、予定どおり工事を進めることができた。建築資材の高騰や調達の遅れにより、工事が遅延等することのないよう、建築課と調整し工程管理を行う必要がある。

学校生活支援事業では、学校生活支援員や特別支援学級補助員を適切に配置したことで、集団生活になじめない児童生徒の支援や個別支援が必要な児童生徒の学校生活を支援することができた。

共に学ぶ環境整備事業では、医療的ケアを必要とする児童生徒の在籍する学校に看護師及び介助員を派遣・配置し、学校への付き添いが必要な保護者の負担を軽減するとともに、学校内のトイレを多目的トイレに改修したことにより、児童生徒が学校生活を送る上での利便性向上につなげることができた。

##### □課題と今後の取組み

学校生活支援事業については、特別支援学級在籍者が増加傾向にあるため、実情に応じた増員、配置に努める。

いじめや不登校等対策事業については、不登校等の件数が増加し、児童生徒の抱える課題も複雑・複合化していることから、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーなどによる支援の充実に努める。

共に学ぶ環境整備事業については、今後も、必要に応じて、医療的ケアを必要とする児童生徒や肢体不自由、性的マイノリティの児童生徒等に対する支援充実に努める。

小学校水泳授業指導補助委託については、今後も順次実施校を拡大できるよう準備を進める。

教育環境の整備については、引き続き亀崎小学校の改築工事や乙川東小学校更新の基本設計を進めるほか、特別教室及び体育館への空調設置や防犯カメラの設置を完了させる。

## 【学校給食センター】

### ■主な取り組みと成果

学校給食食材購入事業については、新規事業として給食残渣を活用して栽培した地元農産物を給食で提供し、児童生徒の心身の健全な成長と地元への愛着や食への興味関心の醸成に努めた。

学校徴収金管理システム導入事業については、これまでは、各学校において指定された金融機関からの口座振替しかできなかったところを、公会計化することにより振替口座の選択肢を増やすことができた。また、小学校入学時に一部の児童は、幼稚園や保育園で使用していた口座を引き続き学校徴収金等の振替口座として使用できるようになったため、口座の再登録の必要がなくなり、保護者の利便性を向上させることができた。システムのデータ整備は多くの時間を要したため、本稼働までは学校負担も大きかったものの、口座振替の手続きや新一年生の口座登録などについては行政が担うことになったため、教職員の事務負担を軽減することができた。

新学校給食センター建設事業においては、非常に厳しい工期の中、関係部署や業者とも綿密に連携を取りながら対応したことで、予定通り供用開始を迎えることができた。また、竣工式・試食会などを実施することで、多くの市民に給食センターをPRすることができた。

### □課題と今後の取り組み

年々食材価格は高騰しており、地産地消率の増加は難しい状況であるが、今後も給食の栄養価維持に努めながらもできる限り地元食材を使用していく。

学校徴収金管理システムに関しては、給食費無償化に関する国の動向を注視しつつ、未納対策の強化や保護者の利便性のさらなる向上、事務手続き改善に努める。

旧学校給食センターの解体工事について、安全確保を最優先とし、関係部署や業者と連携を図りながら、計画的かつ着実に完了させる。

## 【生涯学習課】

### ■主な取組みと成果

音楽のあるまちづくり事業では、半田市文化芸術推進計画の基本目標である「子どもの頃に多様な文化芸術に触れられるまち」を特に意識して、「アニマルコンサート」や「畳でコンサート」の開催など、未就学児を含めた親子で参加できるイベントを拡充した。

また、初開催となった「第1回音楽マルシェ」が象徴するように、鑑賞だけではなく体験の要素を各イベントに多く取り込んでいくことで、音楽文化を全身で体感できる機会を増やすことができた。「音楽マルシェ」については、約3,500人の集客があり、多くの人たちに音楽文化に触れてもらう機会を創出した。また、(株)マツイシ楽器店及び(株)山本楽器と連携し、事業の企画から当日の運営までを一緒に行い、半田市全体で音楽のあるまちづくりを推進することができた。

文化芸術普及推進事業においては、瀧上工業雁宿ホールなど拠点施設での公演を中心とした文化芸術事業の展開から、市民がより身近に文化芸術を感じられるよう、“まちなか”でのパフォーマンスやワークショップを行う取組みに転換を図っている。とりわけ、令和6年度は、「アール・ブリュット展」をサテライト会場（市内2か所の喫茶店）で実施するなど、新たな取組みも始めている。

鑑賞型から体験型への講座・イベントへシフトするとともに、他のイベントとの抱き合わせ実施による相乗効果も生まれ、「誰でも」「いつでも」「どこでも」、そして気軽に文化芸術に触れられる機会が拡充している。

広報については、生涯学習課独自のInstagramのフォロワーが800人を超え、同Instagramや市公式LINE等を通じて、若い世代を含めた幅広い世代に対して情報発信することができた。

生涯学習推進事業においては、市民が資格や特技を活かしてボランティア講師として活躍する「ゲストティーチャー制度」により、小中学校や公民館、各種団体等からの依頼に応じて講師を紹介するとともに、ゲストティーチャーによる講座「まなびとゼミ」を実施する等、様々な主体と連携した生涯学習の推進を図った。

中でも、企業ゲストティーチャーにおいては、小中学校等の学校現場における出前授業の実施に加え、実際に福祉事業所の現場で市民向け講座を開催するなど、地元企業との連携による学びの機会の拡充を図った。

また、リカレント教育の推進のため、日本福祉大学との共催講座を開催したほか、半田市出身の人気アニメーション作家、新海岳人氏による講演会を開催し、学びのきっかけづくりとともに郷土愛の醸成を図る取組みを進めることができた。

小学校区コミュニティの構築に向けた、公民館にかわる小学校敷地内への「地域交流施

設（仮称）」の設置については、市民協働課と連携して、地域の関係者が地域課題を話し合う場「なる小地区 地域のみらいミーティング」（令和6年度：計3回）を開催した。地域のみらいミーティングにおいては、地域交流施設の具体的な使い方や間取り、供用開始後の管理運営のあり方について、活発な意見交換を行い、地域における施設建設に向けた意識醸成を図ることができた。さらに、地域主体で施設の利活用や管理運営方法を協議する準備会を設立・開催し、供用開始に向けた具体的な取組みに着手した。

また、地域住民の意見を反映した基本・実施設計、成岩小学校プール解体工事、擁壁設置工事及び現況調査測量等を実施し、新施設の建設工事に向けた準備を実施した。

半田市福祉文化会館については、単に現状の社会教育施設の機能を維持するという視点に留まらず、まちづくりにおける施設の役割や時代に合った施設の形態・機能の構築について検討する必要性を認識した。

そのため、福祉文化会館の大規模改修を一旦凍結し、長寿命化計画に基づく大規模改修を行うか、現在地で図書館・博物館を含めた複合施設として建替えを行うか等の検討を、教育部を中心に行っていくこととした（併せて「課題と今後の取組み」を参照）。

## □課題と今後の取組み

音楽のあるまちづくりの推進にあたっては、セントラル愛知交響楽団だけでなく、市内音楽関係者等とも連携を図り、市民が活躍できる場を創出しつつ、草の根的に音楽文化が広がっていくような取組みを進めていく。

文化芸術に触れられるきっかけづくりの取組みは進みつつあるので、次の段階として、「その活動をやってみたい、続けてみたい」と思う市民ニーズに応えるための場や機会の創出も検討していく必要がある。

生涯学習の推進では、子どもたちが夢や幸せを追い求めて努力することの尊さに気づき、目的意識を持って自分らしい生き方をするため、学びのきっかけ講座を開催する。

半田市福祉文化会館については、知多半田駅周辺における新たな事業の検討が本格的に開始されてきたことに伴い、当施設がさまざまな影響を受けることが予想される。そのため、事業計画が具体的になるまでは、現在地で建替えるか否かについて判断が下せないため、当面の間は現在地での建替えは行わず、長寿命化計画を一旦中断し、予防保全を含めた必要最小限の改修を実施していく。

## 【スポーツ課】

### ■主な取組みと成果

はんだシティマラソン2024を令和6年11月3日（日）に半田びよログスポーツパーク（半田運動公園）で実施した。午前のマラソンは個人部門とリレー部門を併催し、午後はゲーム感覚で園内を歩くことができるウォーキングに加え、軽スポーツイベントも併せた内容とした。【参加状況：全部門合計923人、50チームが参加】

その他の大会や教室等では、半田市スポーツ協会をはじめ、スポーツ関係団体と連携し、予定した大会等を開催する中、新規事業であるどこでもスポーツ推進事業にて、これまでにない場所及び様々なジャンルと複合的に開催することで、大いに盛り上がる新たなスポーツイベントを実施することができた。

大学地域連携スポーツ推進事業では、令和6年9月から施行された部活動改革に合わせ、総合型地域スポーツクラブの生徒の受け入れ体制の拡張検討や年会費及び月謝等の増額について検討を進めるとともに、令和7年度以降に法人化取得を目指す団体もあり、更なる財政及び運営基盤の強化を図ることができた。さらに、地域スポーツ・文化芸術活動支援事業では、生徒の受入先となる団体に対し、複数年にわたる事業計画の策定支援を実施する中において、これまでに以上に密接に連携を図ったことに伴い、受入及び運営体制の安定化を実現した。

成岩地区総合型地域スポーツクラブハウス、半田びよログスポーツパーク、半田福祉ふれあいプールなどのスポーツ施設については、適正な修繕・運営を実施し、利用者が安心・安全に利用できる施設を提供することで健康維持・増進へ寄与した。

機器の交換修理を行う場合、施設を閉館する必要があるが、利用できない期間を短縮するために毎年行っている換水作業を交換修理期間中に同時に行ったり、安心・安全な施設とするために長期閉館を利用して、普段はできない施設の清掃・備品の整理等を行ったりすることで、改修終了後も引き続き快適に利用してもらえるように努めた。

新総合体育館建設事業では、現体育館の利用者及びスポーツ団体、他団体体育館等の運営実績のある業者などに対し、ワークショップやヒアリングを実施し、様々な意見を反映させた新総合体育館の基本コンセプト等をまとめた基本構想（案）を策定することができた。

### □課題と今後の取組み

部活動改革を始めとするスポーツ環境の変化に合わせ、安定したスポーツ機会の提供と質の確保を目的に、引き続き総合型地域スポーツクラブの財政及び運営基盤の強化を図る

サポートを実施しつつ、引き続き様々な課題解決を進めていく。

他課が実施する既存のイベントに対し、スポーツを通じた新たな参加方法の提案・実施を通じ、メジャースポーツだけでなく、マイナースポーツの普及も図る。

スポーツ施設については老朽化が進んでいく中、利用者が継続して安心安全に利用できるよう、適正な維持・管理を行い、改修等を遅滞なく計画的に実施していく。

新総合体育館の建設地となった半田運動公園全体のより良い利用環境の提供につながるよう、多様な官民連携手法の検討を進める。

## 【図書館】

### ■主な取組みと成果

#### ①間瀬なおかた絵本絵画展

図書館開館40周年記念事業として、亀崎出身の絵本作家間瀬なおかた氏の原画展を開催するとともに、本人に当館にお越しいただき、絵本の読み聞かせやサイン会を行った。また、出身地である亀崎地域の幼稚園や保育園等で、亀崎図書館職員が間瀬なおかた作品の出張読み聞かせ会を行い、郷土の作家を知ってもらう機会、図書館来館のきっかけをつくることのできた。

#### ②地域資料等デジタル化事業

郷土資料を中心に半田市の貴重な83点原資料のスキャニング（デジタル化）を行い、原資料の永久的な保存が可能となった。今後もデジタル化をすべき資料の優先順位をつけながら、必要に応じて実施していく。

### □課題と今後の取組み

「知識の拠点」として行っているイベント・講座の見直し、内容検討を行う。常に新たな図書館利用者を発掘するために、各種イベント等も開催しているが、中には、慣例化しているもの、定員を割るものもあるため、目的やターゲットを明確化し、提供内容を決定・実施していきたい。また、行事を含め、図書館の機能や運営の指針となる「図書館運営基本計画」を令和7年度中に策定し、利用者を支える図書館づくりに努める。

また、デジタル化した郷土資料を電子図書館で公開する。電子図書館だけでなく、図書館での貴重資料展示から、電子図書館でのデジタル資料閲覧へと繋げる取組みなどにより、半田市の貴重資料をWEB上で多くの人に紹介できるようにPRしていく。

## 【博物館】

### ■主な取組みと成果

文化財等公開活用においては、常設展示室2の山車の展示替えを行うとともに、今年度は3つの山車組による三番叟(前棚人形)や祭り囃子の披露を行ったことで、市民に祭り文化への親しみをもってもらう機会を提供できた。また、企画展で展示している資料や、博物館で収蔵している美術品の一部をデータ化し、デジタルサイネージで展示に合わせて公開した。これにより、常時公開していない資料を活用することができた。さらに、令和2年度に作成した半田市文化財ガイドマップに新たに登録・指定された文化財を追加したものを新しく作成し、公共施設や文化財所有者に配布をしたことで、半田市の文化財の周知をすることができた。

旧中埜家住宅では、棟札の展示ケースの制作により、棟札の複製を安全に展示可能となり、常設展示を充実させることができた。さらに、ふるさと納税で得た寄附金を活用して旧中埜家住宅を紹介する動画資料を制作し、YouTubeで公開することで同建物に関する理解を深める環境を整えた。また、敷地外に炎感知器を設置したことにより、火災発生時にはセコム㈱に連絡が入るようになり安全性が向上した。

企画展開催事業では、年間5本の企画展・館蔵品展等を開催した。企画展「全国鉱物採集の旅」の来館者数は32,391人(昨対比+12,556人)で、3万人の大台を超えたのは平成11年の特別展以来25年ぶり、博物館40年の歴史の中でも歴代7位の記録となった。期間中には、記念講演会やミネラルファンデーション作り、鉱物さがし体験など様々なイベントを行い好評であった。

9月～11月の開館40周年記念展の枠では、後半に展示を入れ替えて図書館主催の「間瀬なおかた絵本原画展」を開催し、小さな子ども連れの親子にも好評だった。また、12月には愛知県美術館が毎年開催している「移動美術館」を初めて半田で開催し、県美術館グッズの委託販売を行うなど、新たな試みを行うことができた。

### □課題と今後の取組み

文化財公開活用事業においては、引き続き、文化財に親しむことができる機会の提供や、文化財自体の周知をしていく。また、博物館資料のデータ化をすすめ、既存の機器だけでなく、新しく導入した媒体も使用しながら公開をしていくことで、博物館内外での資料活用を図っていく。

## 【新美南吉記念館】

### ■主な取り組みと成果

平成6年の開館から30周年を迎え、これまでの正統的な南吉顕彰から視点を広げて、様々なジャンル、テーマとのコラボレーションを進めた。

具体的には、環境問題の先駆者レイチェル・カーソンの遺著「センス・オブ・ワンダー」と新美南吉の間に通じるものを取り上げる企画展「君は即ち春を吸いこんだのだ～新美南吉のセンス・オブ・ワンダー～」、人気ゲーム「文豪とアルケミスト」とタイアップして新美南吉の読書遍歴を紹介する特別展「本に押し潰されて死ねば本望です～南吉と読書～」を開催した。

センス・オブ・ワンダー展では、各種団体の協力を得て、テーマに添った内容の朗読会、体験ワークショップ、講座、読書会、映画会を展開した。南吉と読書展では、全国から熱心な文アルファンが多数訪れ、ゲームを入口に実在の作家としての新美南吉に理解を深めてもらうことができ、新たなファン層の開拓に繋がった。開館30周年記念事業として、対談講演会『『文豪』コンテンツとこれからの新美南吉記念館』も開催。展示と講演会を通じ、来場者層の特性から、SNSを介した情報拡散が顕著に見られ、今後の広報戦略上でも収穫があった。

新美南吉童話賞では、それまで応募方法を持参または郵送に限っていたが、昨年からWEB応募を導入した。その結果、20～30代は8割以上がWEB応募を利用し、若年層に対する応募促進に効果が期待できることを確認した。

応募総数は若干の増加で、例年とは異なり新美南吉オマージュ部門から最優秀作品が選ばれた。

### □課題と今後の取り組み

展示や講座、イベントにおいては、今後も文学や人物の視点だけにこだわらず、多様なアプローチにより、様々な層に向けて南吉に親しんでもらう事業を展開する。

童話賞においては、WEB応募やSNSを通じて若年層からの応募を開拓しつつ、今後も当賞の特色である新美南吉オマージュ部門の浸透を図り、南吉作品の普及と顕彰に繋げる。

一方で課題としては、電子出版の普及により商業出版のハードルが下がっているため、童話賞の応募資格を定義しなおすとともに、生成 AI の利用規制についても研究課題とする。

令和7年度 教育委員会主要施策点検・評価表

主要事業名	担当課	令和6年度に得られた成果、事業の評価・課題及び自己評価						今後の取組・方向性	外部評価		
		自己評価	目標・実績		得られた成果		事業の評価・課題		浅田	鈴木	
			成果指標	R6	(単位)	実績	目標				予算額(千円)
1 小学校防犯カメラ整備事業	学校教育課	B	学校における防犯対策が強化されている状態	R6	(単位)	7小学校において、1校当たり6～8台の防犯カメラを校門や昇降口を映すような位置に設置したことで、防犯対策の強化が図られた。	事前に設置予定校に警察の方にも来ていただき、効果的な設置場所について助言をいただいた上で必要な台数の防犯カメラを設置することができた。	引き続き防犯対策を強化するため、未設置の学校への設置を着実に進める。	A	B	
2 亀崎小学校改築等事業	学校教育課	B	事業進捗率	R6	(%)	中棟校舎の解体工事が完了し、新校舎の改築・改修工事についても計画どおり進めることができた。	予定どおり工事を進めることができた。今後は、建築資材の高騰や調達遅れにより、工事が遅延等することのないよう、建築課と調整し工程管理を行う必要がある。また、新校舎への引越については冬休みの短い期間で行うため、備品の調達を含め計画的に行う必要がある。	令和7年度(令和8年1月)の新校舎の供用開始に向けて、新校舎建設工事などを着実に進める。	B	B	
3 学校地域協働支援員配置事業	学校教育課	B	学校と地域が円滑に連携・協働できている状態	R6	(単位)	地域と学校が連携できるよう、学校地域協働支援員が積極的に地域に出て良好な関係を築くことができた。また、教頭の事務補助として、地域への文書配付業務や資料の作成補助を行い、事務の負担軽減を図ることができた。	学校地域協働支援員を配置したことで、学校と地域の連携・協働体制をさらに充実させることができた。	今後は、学校と地域がさらに連携できるよう、各校への配置を進めていく必要がある。	A	B	
4 学校生活支援事業	学校教育課	B	特別な支援を必要とする児童生徒などが安心して学校生活を送ることができている状態	R6	(単位)	令和6年度から新たに中学校へ特別支援学級補助員を各校1名配置したことで、よりきめ細やかな支援を実施することができた。	学校生活支援員や特別支援学級補助員を適切に配置したことで、集団生活になじめない児童生徒や個別支援が必要な児童生徒の学校生活を支援することができた。また、学校生活支援員の報告書等を教育相談員やSSWに共有することで、CSWなどの専門機関に繋げることができた。	特別な支援を必要とする児童生徒に適切な支援が行き届くよう引き続き支援の充実に取り組む。また、学校規模に応じた一律配置ではなく、個別の事情に配慮した配置ができるよう、支援体制を拡充していく必要がある。	A	B	

No.	主要事業名	担当課	令和6年度に得られた成果、事業の評価・課題及び自己評価						今後の取組・方向性	外部評価		
			自己評価	目標・実績		得られた成果		事業の評価・課題		浅田	鈴木	
				成果指標	R6	(単位)	医療的ケアを必要とする児童生徒の在籍する学校に看護師及び介助員を配置又は派遣し、学校への付き添いが必要な保護者の負担を軽減することができた。また、学校内のトイレを多目的トイレに改修したことにより、児童生徒が学校生活を送る上での利便性向上につなげることができた。	医療的ケアを必要とする児童生徒の在籍する学校に看護師及び介助員を派遣・配置し、学校への付き添いが必要な保護者の負担を軽減するとともに、学校内のトイレを多目的トイレに改修したことにより、児童生徒が学校生活を送る上での利便性向上につなげることができた。また、看護師及び介助員が広く支援関係機関と連携することで、学校内と学校外の支援を繋ぎ、切れ目のない支援の充実を図ることができた。				
5	共に学ぶ環境整備事業	学校教育課	B	成果指標	R6	(単位)	医療的ケアを必要とする児童生徒の在籍する学校に看護師及び介助員を配置又は派遣し、学校への付き添いが必要な保護者の負担を軽減することができた。また、学校内のトイレを多目的トイレに改修したことにより、児童生徒が学校生活を送る上での利便性向上につなげることができた。	医療的ケアを必要とする児童生徒の在籍する学校に看護師及び介助員を派遣・配置し、学校への付き添いが必要な保護者の負担を軽減するとともに、学校内のトイレを多目的トイレに改修したことにより、児童生徒が学校生活を送る上での利便性向上につなげることができた。また、看護師及び介助員が広く支援関係機関と連携することで、学校内と学校外の支援を繋ぎ、切れ目のない支援の充実を図ることができた。	今後も、必要に応じて、医療的ケアを必要とする児童生徒や肢体不自由、性的マイノリティの児童生徒等に対する支援充実を図る。	A	B	
				実績								
				目標								
				予算額(千円)	25,388	決算額(千円)	25,327	執行率	99.8%			
6	いじめや不登校等対策事業	学校教育課	C	成果指標	R6	(%,件)	令和6年度においては、SSWの配置人数を従来の1名から3名に増員し、さらに半田中学校に校内教育支援センターIルームを設立するなどの施策を実施した。これにより、支援を必要とする児童生徒の心の安定を促進し、課題解決に貢献することができた。	いじめや不登校など、児童生徒が抱える課題は複雑で多様であり、そのため、教育相談員やスクールカウンセラー、心の教室相談員、スクールソーシャルワーカーなど、専門的な相談支援をさらに充実させる必要がある。	相談支援体制の一層の充実を図り、支援が必要な児童生徒を早期に発見し、迅速に対応することに努める。	B	B	
				不登校児童・生徒の学校復帰率	実績	21.9						
					目標	23.1						
				いじめ事案のうち重大事態となった件数	実績	0						
					目標	0						
				予算額(千円)	72,478	決算額(千円)	71,726	執行率	99.0%			
7	小学校水泳授業指導補助委託事業	学校教育課	B	成果指標	R6	(単位)	令和6年度において、市内3小学校の水泳授業を民間のプールで実施。民間のプールは屋内で温水を利用しているため、天候や時期に左右されず水泳授業を実施することができた。さらに、専門的なインストラクターの活用により、より安全かつ専門的な水泳指導が実施できた。	天候や時期に左右されることなく円滑に水泳指導を実施することができ、また、専門的なインストラクターの活用により、児童の泳力や体力向上に寄与し、安全な水泳指導を行うことができた。しかし、学校と屋内温水プール間の移動に必要なバスの確保が困難となっており、加えて価格の上昇が見られることから、コスト面での課題が浮き彫りとなっている。	現在、市内の3校の小学校において屋内温水プールを活用した水泳授業を実施しており、今後も順次、拡大していく。ただし、移動に必要なバスの確保が困難な状況にあることから、情勢等を見極める必要がある。	B	B	
				屋内温水プールでの水泳授業実施校において、天候や時期を問わず、専門的な水泳指導が行われている状態	実績							
					目標							
				予算額(千円)	24,186	決算額(千円)	19,171	執行率	79.3%			

No.	主要事業名	担当課	令和6年度に得られた成果、事業の評価・課題及び自己評価						今後の取組・方向性	外部評価		
			自己評価	目標・実績		得られた成果		事業の評価・課題		浅田	鈴木	
				成果指標	R6	(%)	実績	目標				執行率
8	中学校部活動改革に伴う施設整備事業	学校教育課	B	成果指標	R6	(%)	学校施設の環境整備を進め、中学校の部活動改革において、休日の活動場所を地域に円滑に移行できるよう支援できた。	今回整備したのは、中学校の部活動改革において使用される学校体育館へ続く砂利道の舗装であり、これにより地域のスポーツ団体等の活動推進及び中学生受入促進の一助とすることができた。	生徒の受入先となる地域のスポーツ団体等が学校施設を活動場所として利用する際の環境整備について、地域が希望する箇所の整備が完了した。	A	B	
工事進捗率	実績	100		目標	100							
予算額(千円)	28,468			決算額(千円)	18,568							執行率
9	学校給食食材購入事業	学校給食センター	C	成果指標	R6	%	給食の食べ残しや調理の際に出る生ごみを活用して栽培された半田市産のミニトマトを提供した。また、献立に応じて豚肉については「市内産」、牛肉については「知多牛」と地元食材の使用を積極的に行った。	給食残渣を活用して栽培した地元農産物の使用したり、地元の旬や郷土料理を食べる「学校給食週間」などでは食材調達の際、産地を指定して半田市産の豚肉を使用することで、市内産・県内産の野菜や調味料を積極的に使用することで地産地消の推進を図ることができた。しかしながら、食材価格が高騰していることから、価格優先で食材を選定せざるを得ない傾向があり、市内産・県内産の農産物の使用が少なかったため、給食物資地産地消比率は減少した。地元食材を使用することは、安定的な量の確保が難しいことや、費用がかかるなど依然として課題が多い。	年々食材価格は高騰しており、地産地消率の増加は難しい状況であるが、安心安全かつ児童生徒の健全な成長や健康を保持・推進できる給食の提供を第一に心がけつつ、今後もできる限り地元食材を使用していく。	B	B	
給食物資地産地消比率	実績	39.77		目標	50.00							
予算額(千円)	539,290			決算額(千円)	539,290							執行率

No.	主要事業名	担当課	令和6年度に得られた成果、事業の評価・課題及び自己評価						今後の取組・方向性	外部評価			
			自己評価	目標・実績			得られた成果			事業の評価・課題		浅田	鈴木
				成果指標	R6	(単位)							
10	学校徴収金管理システム導入事業	学校給食センター	B	保護者が振替口座として複数の金融機関の中から選択し指定できる状態			学校徴収金等の口座振替を行政が担うことで、保護者の振替口座の選択肢を増やすことができた。また、新一年生は保育園・幼稚園・こども園で登録していた口座を引き継いだため、学校で口座登録の手続きを行う必要がなくなり、保護者の利便性を向上させることができた。	口座振替の手続きや新一年生の口座登録などについては行政が担うことになったため、教職員の事務負担を軽減することができた。振替口座の選択肢が増えたことや小学校入学時に一部の児童は口座を再登録する必要がなくなったため、保護者の利便性を向上させることができた。新一年生の口座登録手続きについては、保育園、幼稚園、こども園から以外にも口座情報を引き継ぐ手段があることが判明したため、次年度は対象者を精査する必要がある。また、口座振替ができなかった際、保護者は学校徴収金は学校、給食費は金融機関へ収納することとなり、金融機関への収納は窓口で行う必要があるため、手続きが困難と感じる保護者が多数であった。	本事業の継続は、利便性や事務負担軽減の面からも保護者・学校ともにメリットは大きい。新一年生の口座登録手続きについては、口座の引継ぎが可能な対象者を拡大し、さらなる保護者の利便性向上に努める。また、振替不能者に対しての利便性向上のために事務手続き改善に努める。	A	B		
				保育園、幼稚園、こども園で登録されている口座情報を引き続き小学校でも使用できる状態									
				予算額(千円)	4,135							決算額(千円)	4,097
11	新学校給食センター建設事業	学校給食センター	B	事業進捗率(建物建設工事)	R6	%	最新の衛生管理基準に対応した新学校給食センターの供用開始により、作業環境を改善させることができた。	夏休みという限られた期間の中で、厨房備品や事務用備品の設置を計画的に進め、テスト調理や配膳シミュレーションも円滑に実施し、予定通り供用開始することができた。また、竣工式では国会議員をはじめとする来賓を招き、さくら小学校の協力も得ながら、参加者全員が楽しめる式典を開催した。さらに、市民への試食会では、食材を無駄にすることなく総勢540人に内覧いただくことができ、CACなどのメディアにも取り上げられるなど、新学校給食センターのPRにもつなげることができた。	令和7年度中に旧センターの解体工事を、安全確保を最優先に、計画的かつ着実に完了させる。	A	B		
				実績		100.0							
				目標		100.0							
			予算額(千円)	2,288,222		決算額(千円)	2,278,725	執行率	99.6%				

主要事業名	担当課	令和6年度に得られた成果、事業の評価・課題及び自己評価						今後の取組・方向性	外部評価					
		自己評価	目標・実績			得られた成果			事業の評価・課題		浅田	鈴木		
			成果指標	R6	(%)									
12 音楽のあるまちづくり事業	生涯学習課	B	①音楽のあるまちづくり事業の認知度 ②音楽のあるまちづくり事業の満足度	実績	R6	(%)	半田市文化芸術推進計画の基本目標である「子どもの頃に多様な文化芸術に触れられるまち」を特に意識して、「アニマルコンサート」や「畳でコンサート」の開催など、未就学児を含めた親子で参加できるイベントを拡充した。 また、初開催となった「第1回音楽マルシェ」が象徴するように、鑑賞だけではなく体験の要素を各イベントに多く取り込んでいくことで、音楽文化を全身で体感できる機会を増やすことができた。「音楽マルシェ」については、約3,500人の集客があり、多くの人たちに音楽文化に触れてもらう機会を創出することができた。また、(株)マツイシ楽器店及び(株)山本楽器と連携し、事業の企画から当日の運営までを一緒に行った。	市内楽器店と連携するなど、半田市全体で音楽のあるまちづくりを推進することができた。 成果指標である「音楽のあるまちづくり事業の認知度」については、新たな層の掘り起こしや大型イベントにおける市外参加者の増加によって相対的に下がることはやむを得ないと判断しているが、「音楽のあるまちづくり事業の満足度」の低下については改善が必要なため、イベント毎に実施しているアンケートの内容を精査するなどして、対策を講じていく必要がある。	音楽のあるまちづくりの推進にあたっては、セントラル愛知交響楽団だけでなく、市内音楽関係者等とも連携を図り、市民が活躍できる場を創出しつつ、草の根的に音楽文化が広がっていくような取組みを進めていく。	A	B			
												目標	R6	(%)
				①59.0 ②73.4	①80.0 ②90.0									
				予算額(千円)		11,682						決算額(千円)		11,696
13 文化芸術普及推進事業	生涯学習課	B	鑑賞・体験事業の満足度	実績	R6	(%)	瀧上工業雁宿ホールなど拠点施設での公演を中心とした文化芸術事業の展開から、市民がより身近に文化芸術を感じられるよう、“まちなか”でのパフォーマンスやワークショップを行う取組みに転換を図っている。とりわけ、令和6年度は、「アール・ブリュット展」をサテライト会場(市内2か所の喫茶店)で実施するなど、新たな取組みも始めている。 鑑賞型から体験型への講座・イベントへシフトするとともに、他のイベントとの抱き合わせ実施による相乗効果も生まれている。	「誰でも」「いつでも」「どこでも」、そして気軽に文化芸術に触れられる機会が拡充している。 新たな切口による取組みが前進しているものの、成果指標である「鑑賞・体験事業の満足度」が低下しているため、イベント毎に実施するアンケートの内容を精査するなどして、対策を講じていく必要がある。	文化芸術に触れられるきっかけづくりの取組みは進みつつあるので、次の段階として、「その活動をやってみたい、続けてみたい」と思う市民ニーズに応えるための場や機会の創出も検討していく必要がある。	A	B			
												目標	R6	(%)
				80.9	90.0									
				予算額(千円)		5,962						決算額(千円)		5,803

主要事業名	担当課	令和6年度に得られた成果、事業の評価・課題及び自己評価						今後の取組・方向性	外部評価		
		自己評価	目標・実績		得られた成果		事業の評価・課題		浅田	鈴木	
			成果指標	R6	(単位)	事業の評価・課題	執行率				
14 生涯学習推進事業	生涯学習課	B	なし	R6	(単位)	市民が資格や特技を活かしてボランティア講師として活躍する「ゲストティーチャー制度」により、小中学校や公民館、各種団体等からの依頼に応じて講師を紹介するとともに、ゲストティーチャーによる講座「まなびとゼミ」を実施する等、様々な主体と連携した生涯学習の推進を図った。	学びの推進の観点では、企業を含むゲストティーチャーの活躍の場を広げつつ、その中から市主催によるセレクト講座（まなびとゼミ、企業ゲストティーチャー連携講座）を開催するほか、日本福祉大学との共催講座や学びのきっかけとなる講座を開催するなど、幅広い世代に対して様々な学びの機会を提供することができた。	子どもたちが夢やその先にある幸せを追い求めて努力することの尊さに気づき、目的意識を持って自分らしい生き方をするため、学びのきっかけ講座を開催する。	B	B	
						中でも、企業ゲストティーチャーにおいては、小中学校等の学校現場における出前授業の実施に加え、実際に福祉事業所の現場で市民向け講座を開催するなど、地元企業との連携による学びの機会の拡充を図った。また、リカレント教育の推進のため、日本福祉大学との共催講座を開催したほか、半田市出身の人気アニメーション作家、新海岳人氏による講演会を開催し、学びのきっかけづくりとともに郷土愛の醸成を図る取組みを進めることができた。					予算額（千円）
15 成岩公民館改築等事業	生涯学習課	B	地域住民の交流を促進する新施設を予定どおり建設する。	R6	(単位)	小学校区コミュニティの構築に向けた、公民館にかわる小学校敷地内への「地域交流施設（仮称）」の設置については、市民協働課と連携して、地域の関係者が地域課題を話し合う場「なる小地区 地域のみらいミーティング」（令和6年度：計3回）を開催した。地域のみらいミーティングにおいては、地域交流施設の具体的な使い方や間取り、供用開始後の管理運営のあり方について、活発な意見交換を行い、地域における施設建設に向けた意識醸成を図ることができた。さらに、地域主体で施設の利活用や管理運営方法を協議する準備会を設立・開催し、供用開始に向けた具体的な取組みに着手した。	地域住民との協議等を進めることができ、新施設建設に向けて遅滞なく進めることができた。	公民館において活動する社会教育関係団体が、地域交流施設において活動することを想定した検討を行う。市民協働課との連携による準備会の継続的な開催により、開館に向けて、地域主体で施設の利活用や管理運営方法を協議していく。	A	B	
						また、地域住民の意見を反映した基本・実施設計、成岩小学校プール解体工事、擁壁設置工事及び現況調査測量等を実施し、新施設の建設工事に向けた準備をすることができた。					予算額（千円）

主要事業名	担当課	令和6年度に得られた成果、事業の評価・課題及び自己評価						今後の取組・方向性	外部評価						
		自己評価	目標・実績		得られた成果		事業の評価・課題		浅田	鈴木					
			成果指標	R6	(単位)	生徒の受入先となる団体に対し、複数年に渡る事業計画の策定支援を実施する中において、これまで以上に密接に連携を図ったことに伴い、受入及び運営体制の安定化を実現した。	生徒受入団体の整備において、「部活動改革」と称し、半田市独自の手法による改革を進めた結果、一定の受入体制を構築したことは、国が示す「地域の実情に応じた段階的な体制整備」を実現できたと評価できる。今後は、より持続可能な運営体制の構築を目指し、引き続き、受入団体との連携が重要となる。								
16 地域スポーツ・文化芸術活動支援事業	スポーツ課	B	成果指標	R6	(単位)	生徒の受入先となる団体に対し、複数年に渡る事業計画の策定支援を実施する中において、これまで以上に密接に連携を図ったことに伴い、受入及び運営体制の安定化を実現した。	生徒受入団体の整備において、「部活動改革」と称し、半田市独自の手法による改革を進めた結果、一定の受入体制を構築したことは、国が示す「地域の実情に応じた段階的な体制整備」を実現できたと評価できる。今後は、より持続可能な運営体制の構築を目指し、引き続き、受入団体との連携が重要となる。	半田市独自の手法による改革を進めることができたが、各地区の総合型地域スポーツクラブの運営体制等は、各地区の特色を活かしたものであるため、今後は、地区毎に応じた改革が重要となるため、これまで連携してきた団体に加え、PTAや保護者等も交えて、様々な改革方法を検討・実施していく必要がある。	B	B					
			予算額(千円)	15,026	決算額(千円)	11,170	執行率				74.3%				
			成果指標	R6	(%)	これまででない場所及び様々なジャンルと複合的に開催することで、大いに盛り上がる新たなスポーツイベントを実施することができた。その結果、はんだふれあい産業まつりにおいて、半田市バスケットボール協会主催による開催につなげることができた。	実施初年度に民間団体主催のイベント開催につなげることができたのは大いに評価できる。引き続き、様々なスポーツにおいて、既存の枠組みに囚われない新たな実施方法を模索しつつ、誰もが楽しめるスポーツイベントの企画・運営を実施していき、さらに民間団体主催のイベント開催を目指す。				他課が実施する既存イベントに対し、スポーツを通じた新たな参加方法の提案・実施を通じ、メジャースポーツだけでなく、マイナースポーツの普及も図る。	A	A		
実績	84.3	目標	80	予算額(千円)	1,657	決算額(千円)	1,651	執行率	99.6%						
予算額(千円)	1,657	決算額(千円)	1,651	執行率	99.6%										
17 どこでもスポーツ推進事業	スポーツ課	A	成果指標	R6	(%)	これまででない場所及び様々なジャンルと複合的に開催することで、大いに盛り上がる新たなスポーツイベントを実施することができた。その結果、はんだふれあい産業まつりにおいて、半田市バスケットボール協会主催による開催につなげることができた。	実施初年度に民間団体主催のイベント開催につなげることができたのは大いに評価できる。引き続き、様々なスポーツにおいて、既存の枠組みに囚われない新たな実施方法を模索しつつ、誰もが楽しめるスポーツイベントの企画・運営を実施していき、さらに民間団体主催のイベント開催を目指す。	他課が実施する既存イベントに対し、スポーツを通じた新たな参加方法の提案・実施を通じ、メジャースポーツだけでなく、マイナースポーツの普及も図る。	A	A					
			実績	84.3	目標	80	予算額(千円)				1,657	決算額(千円)	1,651	執行率	99.6%
			予算額(千円)	1,657	決算額(千円)	1,651	執行率				99.6%				
18 大学地域連携スポーツ推進事業	スポーツ課	C	成果指標	R6	(人)	総合型地域スポーツクラブの財政及び運営基盤の強化をテーマに複数年に渡り、勉強会の開催等を実施してきたことにより、令和6年中に1団体の法人化の実現を図ることができた。	運営サポート等研究の委託では、令和6年9月から施行された部活動改革に合わせ、生徒の受入体制の拡張検討や年会費及び月謝等の増額について検討を進めるとともに、令和7年度以降に法人化取得を目指す団体もあり、更なる財政及び運営基盤の強化を図ることができた。指導者等派遣委託では、派遣先のチームと学生の日程調整の課題が浮き彫りとなった結果、前年度と比較し派遣日数の増加にはつながらなかった。	部活動改革を始めとするスポーツ環境の変化に合わせ、安定したスポーツ機会の提供と質の確保を目的に、引き続き総合型地域スポーツクラブの財政及び運営基盤の強化を図るサポートを実施しつつ、チームと学生の日程調整の課題解決を進めていく。	B	B					
			実績	7,142	目標	8,000	予算額(千円)				1,352	決算額(千円)	1,351	執行率	99.9%
			予算額(千円)	1,352	決算額(千円)	1,351	執行率				99.9%				

No.	主要事業名	担当課	令和6年度に得られた成果、事業の評価・課題及び自己評価						今後の取組・方向性	外部評価			
			自己評価	目標・実績			得られた成果			事業の評価・課題		浅田	鈴木
				成果指標	R6	(単位)							
19	新総合体育館建設事業	スポーツ課	C	成果指標	R6	(単位)	現体育館の利用者及びスポーツ団体、他団体体育館等の運営実績のある業者などに対し、ワークショップやヒアリングを実施し、様々な意見を反映させた新総合体育館の基本コンセプト等をまとめた基本構想(案)を策定することができた。	多角的な視点を用いた建設候補地の選定や、本市が抱えるスポーツにおける課題等を踏まえ、多くの関係団体とのヒアリングを実施したことにより、他の体育館における課題や改善点を把握し、基本構想(案)及び後年度に作成する基本計画の策定する上での、情報収集を図ることができた。 このことにより、利用者及び関係団体のニーズを概ね反映した基本構想(案)を策定することができた。	新総合体育館の建設地となった半田運動公園全体のより良い利用環境の提供につながるよう、多様な官民連携手法の検討を進める。	B	B		
					実績	—							
					目標	—							
予算額(千円)				13,112	決算額(千円)		12,925	執行率		98.6%			
20	半田福祉ふれあいプール計画的改修事業	スポーツ課	C	成果指標	R6	(人)	当初計画したプール機器の交換修理を予定通り実施することができた。これにより、機器の突発的な故障の発生を軽減することができ、利用者が安心してプールを利用し、また、小学校水泳授業についても、カリキュラム通り実施できる環境を整えることができた。	機器の交換修理を行う場合、施設を閉館する必要があるが、利用できない期間を短縮するために毎年行っている換水作業を交換修理期間中に同時に行ったり、安心・安全な施設とするために長期閉館を利用して、普段はできない施設の清掃・備品の整理等を行ったりすることで、改修終了後も引き続き快適にご利用いただけるように努めた。ただし、年度目標として掲げた値を達成することはできなかった。これまでも、利用者の増加を図るため、各種教室の開催、クリスマスなど季節に合わせたイベントを開催してきたが、これらの情報を多くの方に届けられるような工夫をすることで利用者の獲得に努めていく。	令和6年度に始めたボイラー、ろ過機、ポンプ等の機器の改修は8年度でほぼ完了する見込みのため、今後は建物本体の劣化状況の調査および修繕計画の策定などに取り組むことで、引き続き、安心・安全にご利用いただける施設を目指します。	B	B		
					実績	92,351							
					目標	94,000							
予算額(千円)				106,480	決算額(千円)		106,205	執行率		99.7%			

No.	主要事業名	担当課	令和6年度に得られた成果、事業の評価・課題及び自己評価						今後の取組・方向性	外部評価		
			自己評価	目標・実績		得られた成果		事業の評価・課題		浅田	鈴木	
				成果指標	R6	(人)	実績	目標				執行率
21	図書館一般事務	図書館	A	図書館事業参加者数	7,500	11,626	令和6年度はこれまでの取り組みに加え、開館40周年記念イベント「間瀬なおかた絵本原画展」を開催。出身地域である亀崎地区にある保育園幼稚園等を訪問して絵本の読み聞かせを実施するなど、図書館の利用促進につなぐことができた。	乳幼児期からの継続的な読書支援のため、三か月児健診時に貸出券を作り、図書を出し出す取り組み「あかちゃんとしよかん」や、小学校1年生への貸出券作成案内、小中学生への電子図書館のID配布等を継続して実施し、図書館利用のきっかけ作りに務めた。各種講座やイベントは、内容を見直し実施したものの、定員を割るものもあったため、今後も継続して見直しを実施していく。	知識の拠点として誰もが本に触れ、情報を得ることができる図書館を運営するべく、図書館の機能や運営の方針となる「図書館運営基本計画」を策定し、利用者サービスをより充実させる。	A	A	
				予算額(千円)	7,655,000	決算額(千円)	7,503,827	執行率	98.0%			
22	図書館資料整備事業	図書館	A	①市民一人当たりの貸出点数(図書) ②電子書籍貸出冊数	①7.0 ②30,000	①6.8 ②38,517	新刊購入の際には市民のリクエストに配慮したほか、子どもの読書推進を目指した児童書の充実・地域の特色を活かした資料の収集・大活字本の購入等、市民の学びや課題解決に寄与した。また、電子書籍については、特に学校利用を視野に入れた資料選定をし、若年層への新しい読書習慣定着の支援をすることができた。	新刊購入を中心に、乳幼児向け絵本・高齢者向けの大活字本や紙芝居・児童生徒向けの多言語資料等の充実に努める等、世代や国籍にとらわれない、あらゆる市民に配慮した資料収集を行った。また、電子図書館については、学校での複数利用に応えられる読み放題資料の提供を継続し、新しい読書習慣の定着に寄与した。今後の課題は、利用の少ない高校生や、働き盛りの世代、外国にルーツがある人が気軽に図書館を利用できるよう、サービス提供のあり方の見直し・改善、積極的な情報提供を行う必要がある。	暮らしや仕事、地域の課題を解決する「知識の発信基地」として、資料の充実を図るとともに、非来館でも図書館サービスを受けられるよう、登録や利用の形を考え、より多くの市民に必要とされる施設を目指す。図書館の機能や運営の方針となる「図書館運営基本計画」を策定し、世代や障がいの有無、国籍に影響されない学びの支えとなるよう、資料の提供や読書環境の整備を行っていく。	A	A	
				予算額(千円)	33,295,000	決算額(千円)	33,289,389	執行率	100.0%			
23	地域資料等デジタル化事業	図書館	A	資料のスキャニング、公開準備が完了すること	—	—	資料のスキャニングが完了し、半田市の貴重な地域資料の永久的な資料保存が可能となり、電子図書館上での公開の準備ができた。	所蔵資料の保存と郷土研究の推進のため、特に郷土資料を中心に歴史的価値のある83点の原資料のデジタル化を実施し、公開準備を行うことができた。今後は、遠隔での半田市のPRができるよう、電子図書館上での効果的な公開をいかに進めていくかが課題である。	今後も、デジタル化をすべき資料の優先順位を明確にし、必要に応じ資料保存のため、デジタル化を行う。令和7年度に本年デジタル化した資料をはんだ電子図書館上で公開するが、電子図書館上のみならず、図書館で実際の資料を展示するなどし、貴重資料をWEB上で多くの方が気軽に利用することができることをPRしていく。	A	A	
				予算額(千円)	1,681,000	決算額(千円)	767,800	執行率	45.7%			

No.	主要事業名	担当課	令和6年度に得られた成果、事業の評価・課題及び自己評価						今後の取組・方向性	外部評価		
			自己評価	目標・実績		得られた成果		事業の評価・課題		浅田	鈴木	
				成果指標	R6	(%)	実績	目標				執行率
24	文化財等公開活用事業	博物館	B	半田の歴史や文化に関心を持っている市民の割合	50.4	55.0	山車の展示替えを行い、それとともない山車組による三番叟(前棚人形)の披露やお囃子演奏を行った。また、収集資料の一部をデータ化したものをデジタルサイネージで公開し、来館者が気軽に見られるようにした。さらに、半田市文化財ガイドマップの内容を更新して関係者に配布をした。	常設展示室2の山車の展示替えを行うとともに、今年度は3つの山車組による三番叟(前棚人形)や祭り囃子の披露を行ったことで、市民に祭り文化への親しみをもってもらう機会を提供できた。また、企画展で展示している資料や、博物館で収蔵している美術品の一部をデータ化し、デジタルサイネージで展示に合わせて公開した。これにより、常時公開していない資料を活用することができた。さらに、令和2年度に作成した半田市文化財ガイドマップに新たに登録・指定された文化財を追加したものを新しく作成し、公共施設や文化財所有者に配布をしたことで、半田市の文化財の周知をすることができた。今後はさらに資料のデジタル化を進め、新しく導入した媒体も活用しつつ情報発信を続けていく必要がある。	引き続き、文化財に親しむことができる機会の提供や、文化財自体の周知をしていく。また、博物館資料のデータ化をすすめ、既存の機器だけでなく、新しく導入した媒体も使用しながら公開をしていくことで、博物館内外での資料活用を図っていく。	B	B	
				予算額(千円)	3,108	決算額(千円)	2,960	執行率	95.2%			
25	旧中埜家住宅整備事業	博物館	B	展示等整備の進捗率	100.0	100.0	重要文化財の附指定となっている棟札の展示ケース及び映像資料の制作を行った。また、炎感知器の設置を行った。	棟札の展示ケースの制作により、棟札の複製を安全に展示可能となり、常設展示を充実させることができた。さらに、ふるさと納税で得た寄附金を活用して旧中埜家住宅を紹介する動画資料を制作し、YouTubeで公開することで同建物に関する理解を深める環境を整えた。また、敷地外に炎感知器を設置したことにより、火災発生時にはセコム(株)に連絡が入るようになり安全性が向上した。今後は、公開日数を増やすとともに、地域住民や次世代を担う子どもたちの認知度・関心を高める必要がある。	国指定重要文化財建物「旧中埜家住宅」の後世への継承という大きな目的を達成するため、今後も「重要文化財旧中埜家住宅における保存活用の基本方針(令和2年3月策定)」をもとに、建物の保存に必要な修理と整備を行い、さらなる活用に取り組む。	A	B	
				予算額(千円)	4,260	決算額(千円)	4,208	執行率	98.8%			

主要事業名	担当課	令和6年度に得られた成果、事業の評価・課題及び自己評価						今後の取組・方向性	外部評価		
		自己評価	目標・実績		得られた成果		事業の評価・課題		浅田	鈴木	
			成果指標	R6	(人)	実績	目標				執行率
26 企画展開催事業	博物館	B	成果指標	R6	(人)	「第39回知多工芸展」、企画展「全国鉱物採集の旅～猪飼鉱物コレクション～」、開館40周年記念展「博物館のモノがたり」、移動美術館「本当の本物の現実」、第39回友の会合同展の年間5本の企画展・館蔵品展等を開催した。	企画展「全国鉱物採集の旅」の来館者数は32,391人(昨対比+12,556人)で、3万人の大台を超えたのは平成11年の特別展以来25年ぶり、博物館40年の歴史の中でも歴代7位の記録となった。期間中には、記念講演会やミネラルファンデーション作り、鉱物さがし体験など様々なイベントを行い好評であった。9月～11月の開館40周年記念展の枠では、後半に展示を入れ替えて図書館主催の「間瀬なおかた絵本原画展」を開催し、小さな子ども連れの親子にも好評だった。また、12月には愛知県美術館が毎年開催している「移動美術館」を初めて半田で開催し、県美術館グッズの委託販売を行うなど、新たな試みを行うことができた。	引き続き、地域博物館の特性と学芸員の専門性を活かし、資料を通じて地域の自然や歴史、民俗、芸術等について学ぶ機会を提供していく。展示の内容を充実させるとともに、講演会や体験講座などの関連イベントを充実させ、SNSを活用して積極的にPRしていくことで、来館者の興味関心を高め、生涯学習の推進と来館者の増加を図る。また、収蔵資料の整理や調査研究を進め、その成果を館蔵品展や常設展示に反映させていく。	A	B	
			企画展開催期間内入館者数	実績	63,248						目標
			予算額(千円)	1,933	決算額(千円)	1,932	執行率	99.9%			
27 企画展開催事業	新美南吉記念館	B	成果指標	R6	(人)	目標値や生誕110年(令和5)の観覧者数には届かなかったものの、ゲームとのタイアップを行ったことで、これまでにない若い層の来館が見られた。また、SNSでの好反応が顕著に見られた。	観覧者の目標値は高めに設定しているため、目標達成にはまだ遠い。令和6年度は、彼岸花の開花が遅れ、咲きそろわなかったことが、展示の観覧者数にも大きな影響を与えたと考えられる。観光のついでではなく、目的となるような展示作成が求められる。特別展は、新たな来館者層を発掘できたと評価できる一方で、従来の層が来館を控えた可能性がある。	新しい来館者層の確保に加えて、従来の南吉ファンが離れないような企画も立てる必要がある。さまざまな層から受け入れられるように、バランスよく多彩な切り口で企画を立案する。	A	B	
			特別展1日あたりの観覧者数	実績	250						目標
			予算額(千円)	3,314	決算額(千円)	3,209	執行率	96.8%			
28 新美南吉童話賞事業	新美南吉記念館	B	成果指標	R6	(編)	応募数が昨年度より増加し、今年度から導入したロゴフォームによる応募数が462編と全体の約3割を占める結果となった。中でも20代～30代は約8割がロゴフォームによる応募であり、若年層の当童話賞への応募促進と南吉顕彰に繋げることができた。	応募数が昨年度より増加し、今年度から導入したロゴフォームによる応募数が462編と全体の約3割を占める結果となった。特別審査員よりオマージュ部門の作品が今までとは違った作品が見られると評価をいただき、最優秀賞はオマージュ部門より入選することとなった。また、昨年度に引き続き、入選者18名のうち市内から3名の方が入選し、市民からの応募も安定しているが、応募数の割合は多くないため、引き続き応募促進のための取り組みを行う必要がある。	応募資格について「商業的に出版したことの無いアマチュアの方に限る。」としていたが、令和7年度(第37回)より「アマチュアの方に限る。」に変更する。これにより、比較的出版が容易な電子出版の経験者による応募が可能になり、応募数の増加が期待される。さらにSNSやインターネットを利用した周知活動を行うことにより、応募数の増加、南吉作品の普及と顕彰につなげる。	A	B	
			新美南吉童話賞応募数	実績	1,637						目標
			予算額(千円)	3,919	決算額(千円)	3,882	執行率	99.1%			